

記者発表（資料配付）				
月日 (曜日)	担当課・班	電 話	発 表 者	その他の発表 資料配付先
3月 31日 (火)	社会教育課 施設・管理班	内線 5760 (078-362-9436)	課長 斎藤 真 (副課長 入江 かほり)	文部科学省

令和2年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）に対する 文部科学大臣表彰の被表彰者の決定について

1 趣旨

平成13年12月に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、子どもの読書活動の一層の推進を図り、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めることを目的として、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた実践を行っている学校・図書館・団体（個人）を文部科学大臣が表彰する。

2 被表彰学校・図書館・団体（個人）

令和2年度は、兵庫県から推薦の下記3校、1図書館、2団体（個人）の表彰が決定した。

学 校	神戸市立東町小学校 猪名川町立中谷中学校 兵庫県立相生高等学校
図書館	高砂市立図書館
団 体	渡瀬道子 一般財団法人兵庫県学校厚生会 西宮本をよむなかよし会

※ 今回の文部科学大臣表彰の対象者 合計：228件

(1) 子供の読書活動優秀実践校

小学校：66校、中学校：35校、高等学校：24校、特別支援学校：5校、
中高一貫校：5校 計：135校

(2) 子供の読書活動優秀実践図書館

図書館：46館

(3) 子供の読書活動優秀実践団体・個人

団体：44団体 個人：3名 計：47団体・個人

3 表彰式

新型コロナウイルス感染拡大の状況及び、全国各地から多くの参加が見込まれることなど総合的に勘案し、表彰式は行わない。

(参考) 活動の概要

(1) 神戸市立東町小学校

当該学校では、学校図書館の利用方法や本の探し方の段階的な指導を行うとともに、児童が読書に親しめるようなきっかけ作りに日々努めている。図書館内では、配架の工夫を行い、本に親しみやすい環境作りをしたり、多様な本の選定を行い、読書センターと学習・情報センターとしての機能を充実させたり、新しい図書を掲示物やプリントで紹介し、進んで図書室を利用しようとする意欲を高めたりしている。学習センターとしては、各学年の教科用図書を取りそろえ、国語科の並行読書や、総合的な学習の時間等の調べ学習が充実するよう本の選定を行っている。また、地域図書館のテーマ本貸し出しも頻繁に利用し、同じ作者、同じ内容の本を多読できるようにしている。

本の選定や、図書館利用の啓発は主に図書委員会児童が行い、「ビブリオバトル」「図書スタンプラリー」など委員会児童の企画により、図書館を利用する児童も年々増えている。また、学期ごとに行われる読書週間「おはよう読書」や、本の読み聞かせボランティアによる「ストーリーテリング」などは、児童も大変楽しみにしている活動である。さらに、全校生が読書感想文コンクールに応募し、神戸市読書感想文コンクール4年連続学校賞という輝かしい成果につながっている。

(2) 猪名川町立中谷中学校

当該学校では、14年前から毎朝「朝読書」を実施しており、生徒の読書習慣定着の成果を上げている。学校図書館の工夫として、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた使いやすい表示を目指すとともに、6年前よりバーコードリーダーによる貸出を導入して利用促進を図っている。推薦図書の案内や行事や季節に合わせたテーマ展示などで生徒の読書啓発を行っている。

また、専属の学校図書館司書を中心に、図書委員会と共に、しおりコンクールや読書イベントの開催、文化祭での図書委員会の展示などを通じて読書の楽しさを発信している。

公共図書館と連携し、資料貸出をしていただき、生徒の学習や読書活動に役立てている。

(3) 兵庫県立相生高等学校

当該学校では、読書感想文コンクールに1・2年生全員が参加し、夏休み中に提出された作品は、校内審査を経て播磨西支部へ出品しており、毎年上位に入賞している。令和元年度は、県コンクールで県知事賞を受賞するなど、優秀作品も出ている。また、これらの優秀作品は校内の読書感想文集『邂逅(かいこう)』に掲載され全校生徒が読むことができるようになっている。

図書室の運営も、担当教員以外に1・2年の図書委員が、昼休みや放課後の貸し出しや返却の事務作業を手伝ったり、配架の工夫を行ったりするなど、積極的に関わっている。また、図書館だより（各月発行）にも図書委員がおすすめ本として図書館の本を紹介するなど、読書活動の推進に貢献している。

さらに、3学期には全校読書会が開かれ、約30の講座に分かれて読んだ本についての意見交換を行うなど読書に親しむ機会が設けられている。

令和元年度は第51回兵庫県学校図書館研究大会（播磨西大会）を、校長を運営委員長として開催し、俳人 夏井いつき氏を講師にお招きするなどして成功に導いた。生徒ひとりひとりの豊かな心と自ら学ぶ力を培い、新しい時代に「生きる力」を育む場として、学校図書館の充実・発展に大いに貢献した。

(4) 高砂市立図書館

当該図書館は、毎年夏休みの前に読書手帳を市内の小学1年生に配布して、読書普及に努めている。また、学校連携としては、学校の希望にあわせて、本の修理やポップの作り方を指導し、キャリア教育の講師として授業に協力している。また、夏休みや図書館祭等のイベント時には、高校生ボランティアや中学校の生徒会役員が図書館に来て選んだ「おすすめ本のコーナー」を設置している。(おすすめする本のポップや本のまくらを書いたカバーも制作している)

さらに、本の予約や受け取りをインターネットなどから利用できるシステムを整備し、まちなか図書館サービスとして市内8カ所の公民館でも貸出・返却ができるようにした。

新図書館オープン後は、絵本の読み聞かせや手遊びを行う幼児と親子向けのイベント「えほんのもり」を毎週火曜日（2回）実施している。このイベントでは、演目内容を毎回変えるなどの工夫や、読み聞かせポイントカードを作成して、10回参加でオリジナルグッズがもらえる特典により、年間98回1,450人（平成30年度実績）の参加がある。

(5) 渡瀬道子

郷土の児童文学作家である森はな氏主宰の「森はな子供の本を読む会」に1975年から参加。並行して加古川市立図書館（当時）主催の「子どもと本の研究会」にも1977年から参加し、研鑽を続けていた。また、1982年からは森はな氏主宰の「森はな東播子供の本の学校」にも参加していた。

上記で学んだことを実践するべく、ボランティアとして加古川市立中央図書館（名称変更前：加古川総合文化センター図書館）の開館当初から30年以上もの長期にわたり、毎月の定例行事の中で絵本の読み聞かせを行っており、定例行事以外でも、中央図書館が主催する「子どもの読書週間」でのイベントにおいて、大型絵本の読み聞かせや紙芝居の実演などを行っている。

また、長年のボランティア経験を活かし「加古川市子どもの読書活動推進計画」の策定委員を務めるなど、図書館と連携し活動している。これらの活動により、加古川市並びに東播磨地域の子どもの読書活動の促進、活性化に大きく貢献し、地域の読書環境の改善に効果をあげている。

(6) 一般財団法人兵庫県学校厚生会 西宮本をよむなかよし会

当該団体は、昭和62年に兵庫県学校厚生会の働きかけにより退職教職員の「生きがい創造（能力活用）事業」の一環として西宮市立高木小学校で設立された。その後、西宮市内の他の小学校にも開設された。土曜日の読み聞かせを中心とする活動は西宮モデルとして評価され、やがて全県下各地にも広がった。保護者同伴の小学1年生を対象とし、入門期の読書活動を通して、読書への興味関心を高めるとともに、保護者の家庭教育への有効な研修の場となり、親子関係の良好な構築にも役立っている。兵庫県学校厚生会は地域貢献の公益事業として、兵庫県教育委員会や西宮市教育委員会から後援名義をもらい、貸出図書の購入や指導員の交通費・活動費などを支援している。

また、指導員は児童の興味関心を高めるための教材などの準備や環境整備にも心を配り毎回楽しい雰囲気で実施できるように工夫している。今では毎年、会場校以外の地域の児童や保護者も参加し、地域の教育文化の発展に貢献できている。